

### 3-1-② 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

施設計画の考え方を踏まえて、中央図書館に必要な機能について「開架室系部門」「資料保存部門」「運営と管理部門」「市民活動支援部門」「ロビー・共用部」に分類整理しました。なお、面積割合についてはあくまで目安とし、今後、設計の過程で詳細に検討します。

#### 1. 開架室系部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(1)開架室系部門	<p>・開架図書は開館時 17万冊 + α</p> <p>・西舞鶴駅東口駅前広場に面した玄関ホールから自然に連続して、市民が近づきやすく、誰もが自由に資料を手にとれる開架室を二層構成で配置する。広場レベルの開架を賑わいの広場系開架、上層レベルの開架を静寂系開架として機能環境をしつらえる。</p> <p>・一般資料世界をなるべく広く、資料群のつながりを構造化して並べ、世界を映す30万冊開架が出現する。</p> <p>・開架資料の全てがレファレンス資料という理念で、配架展示する。そこに本と人の居心地をしつらえる。</p> <p>・開架資料全体は開館時17万冊          →将来準開架を含めて27万冊(運用として31万冊)。</p> <p>・開架室はICTを整え、本とPCのハイブリッド環境を目指す。</p> <p>・閲覧席はPC使用とプライバシーや騒音の調整を検討する。</p> <p>□市民に身近で親しみやすい構成の広場系開架室は、視聴覚、子ども、YA、ラーニングcommons、暮らしの資料、雑誌などで、一階への配置がイメージできる。広場のにぎわい活気や生活音に包まれた環境になる。</p> <p>□専門的知的な資料を蓄えた構成の静寂系開架室は、一般、参考、地域行政、新聞、主題雑誌、支援系資料で、静かさや落ち着きある資料世界と居場所環境であり、二階への配置がイメージできるだろう。</p>	<p>・市民活動支援部門のスペースと連続的一体的な環境のしつらえ。</p> <p>・500席以上の多様な居場所/座席。</p> <p>・資料展示表現性の高い書架形式。</p> <p>※開架室は、中央部の低中書架(h1.5m程)と周辺部の高密度高書架で構成。地域・行政・参考資料は高書架で収容冊数を満足させ読書席を配置する。開架は一般に40冊/棚で計画し書架の整備がされている。比較参考資料にある開館後の開架実数を観察すると、貸出されつつ開架で運営されている収容実数として、50冊/棚が想像される。開架収容17万冊は、開架運用21万冊に相当と考えられる。また、準開架10万冊を加えて、舞鶴市民の向き合う開架系資料世界は30万冊を超えて、成功事例と同等になる。</p> <p>※開架室床の積載加重は800kg/m<sup>2</sup>を想定する。</p> <p>※開架室系の利用者が入場する書架間の通路幅員は、バリアフリー法の趣旨に準じて1.2mを確保する。</p> <p>※開架内多目的スペースの配置型も設計段階で検討する。</p>	<p>中計 1750m<sup>2</sup> (43%)</p>
①一般成人分野	<p>・一般成人開架収容力は開館時に17万冊を想定した。必要収容力を満たす書架と十分な閲覧席を配置する。</p> <p>・暮しに役立つ一般書を1万冊→将来2万冊、7類の芸術とともに広場系開架に配置を想定する。</p> <p>・静寂系開架室には、人文科学、自然科学、社会科学を、特定主題配架とともに、配置を想定する。</p> <p>・高書架7段、中低書架5段(棚上で6段)をゆとりあるよう配置。開架全体の構成が感じられ、圧迫感なく、サービスの目も届き、変化あるスペースを工夫する。</p> <p>・読書席と書架群とを別々の領域とするのではなく、本の中に人がいる、人の中に本がある、という一体感を出すような本の森のイメージ環境をしつらえる。</p> <p>・新刊展示架、企画展示架、特設主題架を織り交ぜる。</p> <p>・外国語文献、多文化サービス、ビジネス支援、医療介護資料など、NDC分類を超えた主題を立て複合的総合的な配架表現が、開架室そこそこに展開する。</p> <p>・地図架、旅行パンフレット架、7門大型本架、文庫新書架、CD/DVD架など表現性のある書架を制作する。</p>	<p>・書架(5段と7段、手が届く高さ)</p> <p>・各門にニュース対応の展示板架。</p> <p>・読書席(机、いす)、一般開架に多様な形式で150席。</p> <p>・地図架/地図台/地図ケース</p> <p>・旅行パンフレット架</p> <p>・ショーケース架</p> <p>・複本収納架</p> <p>・ICT環境</p>	<p>暮らしなどを除いておもに静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>770m<sup>2</sup></p>
②新聞と雑誌分野	<p>・新聞、雑誌を自由に閲覧する。</p> <p>・ポピュラーな雑誌は広場系開架に気軽に配置する。一般と専門の新聞、主題受けの雑誌は、静寂系開架の大机のある落ち着いた環境で、一定の期間の新聞(1ヶ月)雑誌(半年)のバックナンバーを配架する。</p> <p>・日刊紙、その他専門新聞 20紙 (→将来30紙)          雑誌 300タイトル (→将来400タイトル)</p> <p>・開架室全体に目が届き、静寂でくつろげるところ。</p> <p>・新聞、雑誌が乱雑にならないよう、閲覧席、新聞架、雑誌架の配置、出入り通行動線の離隔を考慮する。</p> <p>・専門系雑誌は主題配架を方針として、バックナンバーを含め開架の主題別に混配すると良い。(岡山市方式)</p>	<p>・当日新聞差し、当月新聞架</p> <p>・雑誌架(バックナンバー12冊/タイトル)</p> <p>・閲覧席(机いす席)20(ソファ)20</p> <p>・新聞記事データベース等ICT環境</p> <p>・新聞を広げる傾斜机、くつろぎソファ席も必要。</p>	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>187m<sup>2</sup></p>

3-1-② 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

1. 開架室系部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
③ 視聴覚分野 資料と視聴席	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽や映像メディアを貸出し、鑑賞席でも視聴する。</li> <li>広場系開架室の中で、青少年分野に隣接するところ。</li> <li>多主題であるから誰もが近づきやすい位置を考える。</li> <li>資料 6000冊 (→将来12000冊) CD 10000タイトル DVD 2000タイトル</li> <li>鑑賞席を設けず全館モバイルとするか設計時に検討。</li> <li>視聴画面が見えないプライバシー配慮された視聴席。また、サービスデスクから注意が届くよう配置する。</li> <li>歴史など主題別配架しないコミックを、芸術系のメディアとしてここに配架してもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料架</li> <li>視聴席(音楽/映像)についてはPC貸出で全館利用など意見あり。</li> <li>年配者対応やプライバシー、音など、設計時に検討する。</li> <li>AV資料収集では著作権処理に留意する。</li> </ul>	<p>広場系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>80㎡</p>
④-1 参考資料分野 レファレンス (調査/研究スペース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>静寂系開架室の一翼で、落ち着きがあり、地域資料や行政資料と一群をなす。相談デスクを配置したい。</li> <li>主題配架が可能な場合は一般開架内での混配も検討。</li> <li>参考資料 5000冊 (→将来10000冊) (辞書・事典類を中心に、インターネット環境、データベースPC)</li> <li>書架から必要資料を取り調査研究に閲覧席利用する。</li> <li>地図をひろげられる4人テーブル席2台を配置する。</li> <li>個人やグループのための小研究室の配置を検討する。</li> <li>近くに、ビジネス支援コーナーや医療サービスコーナーや情報コーナーを配置して、関連づけたサービス分野を形成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7段高書架</li> <li>掲示板</li> <li>パーソナル用ファイルキャビネット</li> <li>◎課題解決のための多様な座席</li> <li>研究大机席 (4席×2= 8席)</li> <li>研究机席 (8席)</li> <li>個人キャレル席静寂室 (10席)</li> <li>個人研究室 (1席×2= 2席)</li> <li>グループ研究室 (6席×2=12席)</li> <li>ICT環境、</li> <li>OPAC端末席</li> </ul>	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>一般成人分野 静寂系開架の面積に含める</p>
④-2 地域資料分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都府、広域圏周辺市、などの地域資料を収集し、市民の調査・研究を援助する。</li> <li>資料 10000冊 (→将来12000冊) 大型地図(都市計画図/都市形成史図/防災/海図など)</li> <li>市民と地域の資料を研究し蓄積したい。 &lt;軍史防衛/引上げ/地域コミュニティ誌・広報紙/チラシ&gt;</li> <li>調査席は参考資料コーナーと共用とする。</li> <li>郷土資料館の協力を得て歴史資料コーナーを設け、行政と市民と地域の資料展示コーナーを考えたい。 (郷土研究資料副本を配架しレファレンスを資料館につなぐ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7段高書架</li> <li>展示ショーケース架</li> <li>掲示板</li> <li>大型地図架</li> <li>パンフ/リーフレット架</li> <li>パーソナル用ファイルキャビネット</li> <li>◎課題解決のための多様な座席</li> <li>研究席(10席、4席はキャレル)</li> <li>ICT環境</li> <li>旧メディアのビデオテープ 視聴席</li> </ul>	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p>
④-3 行政資料分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都府、広域圏周辺市などの行政資料、統計資料を収集し市民の調査・研究を援助する。</li> <li>行政業務や議会活動に奉仕する。</li> <li>資料 5000冊 (→将来10000冊) 大型地図 (都市計画図/都市形成史図/防災地図など)</li> <li>調査席は参考資料コーナーと共用とする。</li> <li>議員活動資料、住民運動資料、地域催事のチラシ等冊子体でなく逸散する資料をストックするシステムを研究し蓄積したい。(市民活動資料アーカイブズ)</li> <li>「SDG's都市」など政策主題関連資料の収集展示する。</li> <li>まちづくり(6門)などを総合化し配架する事例もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7段高書架</li> <li>展示ショーケース架</li> <li>掲示板 ・大型地図架</li> <li>パンフ/リーフレット架</li> <li>地域調査ファインダー・パーソナル用ファイルキャビネット</li> <li>ICT環境</li> <li>※舞鶴市洪水ハザードマップは1000年確率の可能性で、0.5~1m、1~3m浸水箇所が敷地内に存在することを示している。地域行政資料など、現物や貴重資料の開架展示は上階化など対策を講じたい。</li> </ul>	<p>113㎡</p>
⑤ 静粛読書室機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開架室の中に集約的な静粛読書室機能があるとよい。室とすべきかコーナーかは設計時に検討する。</li> <li>中高生の学習席としては、YAラーニングコモンズや交流多目的スペースを学習室に利用する方法もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人閲覧席、研究席</li> <li>◎ビジネスマンの課題解決研究席</li> </ul>	<p>一般成人分野 静寂系開架の面積に含める</p>
⑥ 障がい者サービス分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚/聴覚/身体等の不自由により図書館利用に障がいのある利用者に、資料と場とサービス機会を準備する。</li> <li>静寂系開架室内のサービスデスク近くが望ましい。</li> <li>資料 3000冊 (→将来5000冊) と目録。DAISY. 25。 録音資料、点訳資料、大活字本、音訳ソフトPC</li> <li>大活字本は高齢者も手に取りやすい一般成人分野へ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デスクへの高齢者動線との干渉を回避した誘導ブロックの配置。</li> <li>館内外の音声案内誘導も検討。</li> </ul>	<p>資料の配置は一般成人分野 静寂系開架の面積に含める</p>



3-1-② 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

1. 開架室系部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
⑨情報コーナー 資料検索 サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベース、蔵書目録(OPAC)、電子ジャーナルやインターネット、利用者のコンピュータによる資料検索のスペース。機器配置は設計時に協議。</li> <li>ビジネス支援コーナーの近くに配置する。</li> <li>データベース利用上、参考図書近くに配置する。</li> <li>サービスデスクから目の届くところ(利用援助)</li> <li>インターネット用(利用時間の制限などを検討)</li> <li>書架間にも数台を設置する。(蔵書検索など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広場系、静寂系開架の双方に</li> <li>机：立ち机型、座り机型、</li> <li>蔵書目録端末 <b>2台程度</b>×2707</li> <li>無線LAN設備(機器端末数は設計段階に併行して検討決定)</li> <li>インターネット端末は<b>10台程度</b>を参考資料コーナーや開架各所に配置</li> <li>データベース <b>8種程度</b>、参考資料の近くに配置。</li> </ul> <p>※機器台数は設計段階で協議する。</p>	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>30㎡</p>
⑩(自動返却コーナー) 自動貸出コーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動返却仕分けシステムの導入は設計時に確定する。(返却口を設け、背後に返却作業室10㎡&lt;自動返却仕分けを置ける広さ&gt;整理机、再読取り機、ブックトラックを配置する。)機器導入費と人件費圧縮の費用対効果で検討する。</li> <li>出入口外のブックポストと停車スペースを配置する。</li> <li>開架室出入口近く自動貸出機 <b>3台程度</b>二箇所配置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸出：広場+静寂系、3台×2箇所(返却：広場系1箇所、ポスト式)</li> <li>自動貸出機、返却機(専門工事)</li> <li>返却用ブックトラック、数台(返本室(10㎡程度)、仕分け機有無)</li> </ul> <p>※機器台数は設計段階で協議する。</p>	40㎡
⑪予約本取置きコーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>予約本取り置き書架で囲まれたコーナーを設け、専用ゲート、自動貸出機を置く。(休館日や夜間も使える安城市図書館の事例参照)</li> <li>開架部門が閉鎖の時も、外部/共用部から入れる。</li> <li>当面<b>3000冊</b>程度の書架を用意する。</li> <li>自動貸出機をコーナー入口に配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広場系開架各一箇所</li> <li>6段書架15連、3000冊対応。</li> <li>感知ゲート</li> <li>自動貸出機/机</li> <li>予約照会機</li> </ul> <p>※機器台数は設計段階で協議する。</p>	
⑫開架室内 サービス デスク周り	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合案内、登録受付、自動貸出補助、リクエスト受付、読書案内などの接遇を行う利用者側スペース。動線を妨げない順番待ちの溜まりスペースが必要。</li> <li>レファレンス(調査研究・地域資料の利用のための援助、情報検索援助を含めて)を行うサービスデスクと利用者の設備やスペース。利用者席背後に通行動線が近寄ることなくプライバシーの守れる配置とする。</li> <li>位置は出入口に十分注意を向けられるところにする。</li> <li>デスク配置は利用者に威圧感を与えないようにし、入口から真正面の向きにしない。落ち着いた環境にしつらえる。</li> <li>近年は、こどもデスク、相談デスクはH70cm程度で、椅子対応とするが、貸出返却のサーキュレーションデスクはH85cm程度で、職員も立った対応とする形式(利用者と同じ目の高さ)も多くなっている。</li> <li>利用者にわかりやすい案内サインを設置する。</li> <li>職員が出入りしやすいよう、いくつか区切られるように工夫する。</li> <li>デスクバックのしつらえは運営管理部門に記載する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サービスデスクの数と機能</li> <li>◎総合サービスデスク ×3箇所(返却×1・貸し出し×2)(立ち机型、車いす対応等検討)(案内、クイックレファレンス、登録、)</li> <li>◎レファレンスデスク×1箇所</li> <li>◎子どもデスク ×1箇所</li> <li>・手荷物置棚をデスク客側に設ける</li> <li>・記載台</li> </ul>	
⑬野外読書と 自由なテラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>2階開架室に冬期に有用なサンルーム型テラス読書席(フリースペース)を設けることも考えられる。</li> <li>資料持出感知ゲートの内側管理区域として配置する。</li> <li>飲食やおしゃべりなどにも対応利用できる。</li> <li>福島県南相馬図書館の事例：中間季は外気に開放。冬季や寒冷期には、深夜電力蓄熱型床暖房のあるサンルームとしての読書テラス利用で人気がある。飲食、おしゃべりが許容されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外用テーブル、椅子</li> </ul>	<p>開架部門面積としては外部なので0㎡。建築基準法上では硝子底下は参入される。</p>

2. 準開架系部門 3. 資料保存部門 4. 運営と管理部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(2) 準開架系部門	・開架系の居室型集約的公開書庫として当初10万冊(東西現図書館開架の50%想定)順次閉架書庫に移動する。		中計 540㎡ (13%)
① 準開架公開書庫	・開架への配架から5年程度経て利用回転率が落ちた資料、全集系の動き少ない資料、雑誌のバックナンバー、を集約的公開書庫的に配置する。(例、伊万里、君津) ・収容数は当初10万冊、居室環境のしつらえとする。 ・防火区画、調温湿環境、排煙窓付き、書架間通路1.2m。地震転倒防止に留意した7段書架を想定する。 ・閲覧用個人キャレルを配置しても良い。(例、君津) ※開架室床の積載加重は800kg/㎡を想定する。	・固定書架(D45、7段)耐震固定 ・スチール性ローコストBS型書架想定  ・個人キャレル席・研究15席	540㎡
(3) 資料保存部門	・閉架書庫収容冊数は当初10万冊(将来必要な時期に積層書庫上層書架増設で20万冊を可能にしたい。)	・固定書架と可動集密書架 作業台 ブックトラック ・奥行60cm物品架(新聞現物台本用)	中計 260㎡ (6%)
① 閉架書庫	・サービスデスクや作業室から動線が明快で近い位置。図書、新聞・雑誌、地域資料、行政資料等の資料を保存。 ・防火区画、熱負荷や直射日光対策、温度湿度調整(温度17~25℃、湿度50~60%)、防虫など環境計画に留意。 ・収容冊数は当初10万冊、将来の増設を念頭に置く。 ・下層固定架、上層に一部可動集密架を想定する。 ※積層書庫を受ける床の積載加重は1t/㎡を想定する。 書架スパン1.8m、書架間通路0.9mを想定する。 ・書庫内の検索、曝書、整理等の人の作業環境としても健康的であり機能的であるようにしつらえる。 ・温湿度管理の壁仕様を持つ特別収蔵庫12㎡程を検討。(和書、漢籍、日本画、軸、寄託貴重書の保管1000冊程度)	・固定書架と可動集密書架 作業台 ブックトラック ・奥行60cm物品架(新聞現物台本用)  	260㎡
(4) 運営と管理部門	運営管理の②③④は音/空調/防塵は区画しつつ視覚的には一体に連続する。		中計 470㎡ (12%)
① サービスデスクとワークスペース	・開架室各層にサービス、相談デスクを配置する。 ・デスクの裏方が、サービス部門担当者ワークスペースとなり、予約や督促などの裏方作業をしつつ、デスク人員の応援がすぐできるようにし、効率的人員配置としたい。	・車椅子も使える 裏方エレベーター、階段 ・作業机、椅子、書架	開架部門 面積に含める (30㎡)
② 地域奉仕分野 <BM車庫>> <BM書庫>> <配本ヤード>	・地域図書館、幼保園、学校図書館、団体・施設への貸出奉仕。底下の配本車スペースや閉架書庫に近接。 ・地域奉仕書庫5万冊と配本コンテナヤードを備える。(7段複式高書架@1.35m、45冊/棚、ブックトラック置場) ・団体貸出本の入れ替え作業、貸出図書の修理を行う。 ・外来者との打ち合わせコーナー(共用でよい) ・底下作業照度に留意。倉庫、洗車水栓、ゴミ置場、	・作業台、机、いす、洗面台、 ・地域奉仕書庫4万冊(100㎡程度) ・掲示板、白板、お話し道具置場、 ・サービス1台毎の書棚とコンテ置場、 PC端末、作業室(40㎡程度) ・BM車1台+配本車2台車庫 用具庫(80㎡程度)	220㎡  ※BM:BOOK MOBILE 自動車図書館
③ 資料構築分野	・図書資料の選書・受入・整理・発注作業を行う。 ・複数の共用小会議室があれば旋錠し見計らいに使う。 ・荷解き配達室:搬入に便利な位置、段ボール置場を。 ・選書・受入・整理室:資料情報収集と選択、選書会議、自館装備・地域資料検取・分類目録装備、落着いた作業。 ・学校図書館とも選書協働。フリアクセスフロア、広い通路必要。 ・市民共用出来る位置に印刷・製本室:防音、合本修理。 ・防音に配慮した点字プリンターコーナー	・閉架書庫に近く整理書架と作業台。 ・高書架3千冊、作業台、物品架、物置、換気設備、作業台、パン架、選書個席、書類キャビネット、PC端末、収納架、 ・複写機、軽印刷機、裁断機、簡易製本機、展示用印刷機、作業台、点字プリンター 荷解き(10㎡) 選書整理(40㎡) サーバールーム(10㎡) 印刷製本(20㎡) ※サーバールーム/防災設備総合盤の配置は上階化など対策を講じる。	80㎡
④ 企画運営分野	・事業企画、庶務、経理、施設管理、外来者対応を行う。 ・②③分野作業スペースと視覚的連続。④はフリアクセスフロア、館長席や応接席も置く。複数小会議室を市民と共用。 ・市民グループやボランティアとの接点の諸室を並置。 ・企画や庶務担当など常時在籍業務のスタッフ以外は、人数分の固定机を配置せず共用ワークデスクを置く。 個人に可動の鍵付きサイドキャビネットを支給し事務室集約。	・共用の小会議と打ち合わせ室 ・書類棚 ファイルキャビネット 物品棚 ・事務机席を 席、大作業机、個人支給袖机、コピー機、掲示板  事務室/応接/作業室(90㎡)	
⑤ スタッフ諸室	・スタッフルラウンジ:職員休息、食事や小会議に利用。緊急救護スペースは職員や利用者が横になれる。 ・スタッフルラウンジには職員研修や情報交換の為の書棚を置く。 ・職員ロッカー室:男女比を変えられて洗面台を設置。 ・通用口に近く、採光換気があり外気のスタッフテラスもあるとよい。職員用トイレをユニバーサル仕様で配置する。	・テーブル椅子席・ミキシンと冷蔵庫 ・救護:畳スペースか簡易ベッド ・男女別ロッカー室、洗面台、トイレ  救護/スタッフ/水回り(70㎡)	170㎡
⑥ 派遣職員控室	・施設管理、清掃の派遣職員が常駐し休息に利用する。 ・通用口に近く、居住性がよくワークテラスが欲しい。機械警備の主装置を置く。清掃具、消耗品収納庫。	・テーブル、手洗台、ロッカー ・用具収納庫 (10㎡程度)	

3-1-② 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

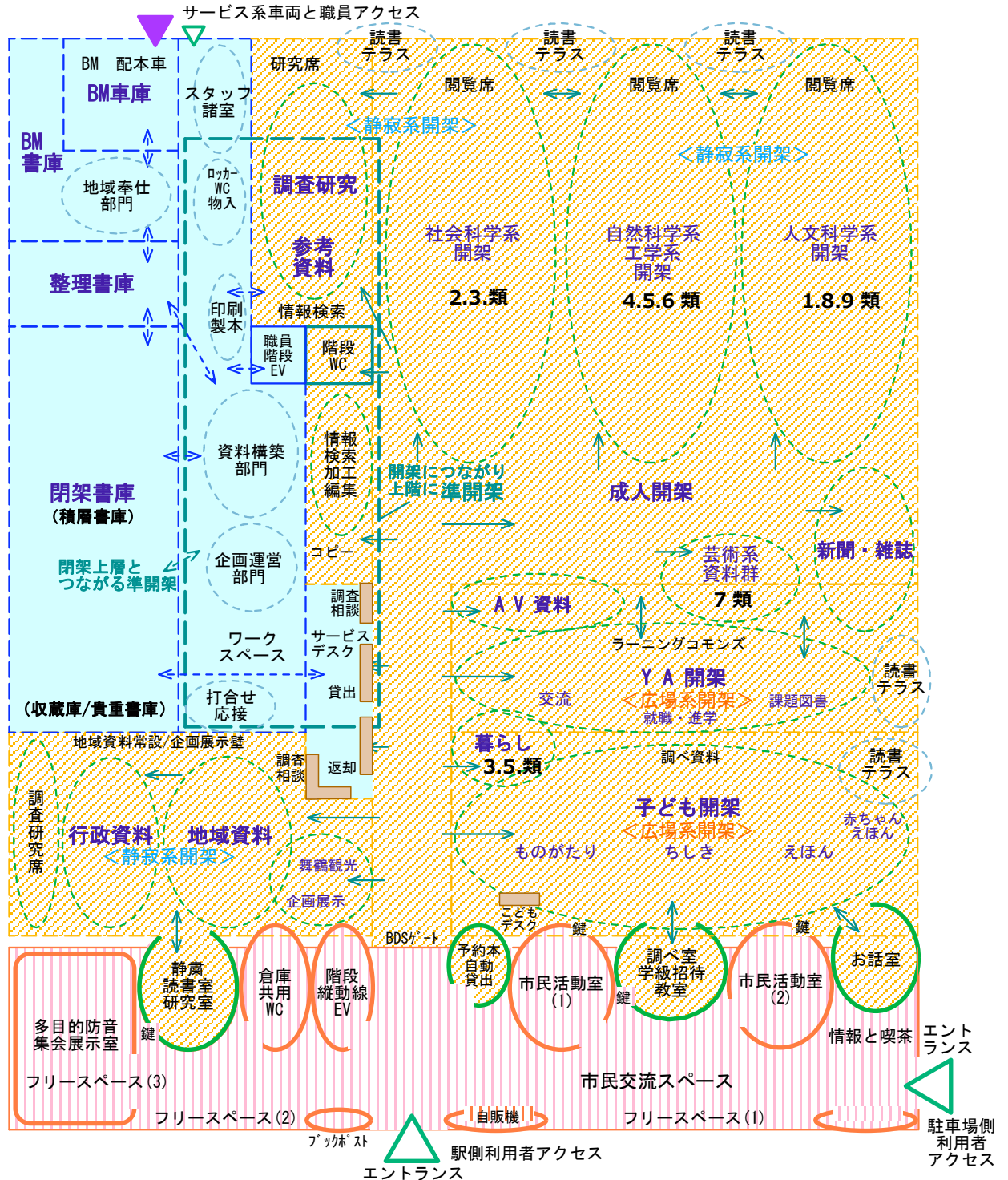
5. 学習・創作活動支援部門 6. エントランス等共用部 7. 市民活動支援部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(5) 学習・創作活動支援部門			中計 120㎡ ( 3%)
① 市民活動室 (1) (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館利用に関連して市民や市民グループの活動を支援する諸室。研究会/読書会/講座/懇談会/応接に。</li> <li>机と椅子の配置を変えて30席ほどの会合ができる。</li> <li>活動室へのアプローチ環境となるフリースペースとは、硝子間仕切りなど透過性と一体感をしつらえる。</li> <li>60㎡程度を外気に面して2室。</li> <li>図書館運営や図書館市民利用を側面支援する市民や市民グループの活動を支援する諸室、スペース。</li> <li>市民で個人で利用する市民活動支援ゾーンとは別に、搬入車利用や運営部門や印刷製本室に近い場が良い。</li> <li>お話し会、子ども催事、記録資料作成など、予約無しに適宜利用ができて、自在にコーナー区画して使う。</li> <li>物入、グループロッカー、手洗い、野外活動テラス。</li> <li>学校司書の研修、協同選書、会議にも使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中教室程度の広さで、2室</li> <li>3人机と椅子×15セット×2室</li> <li>掲示板、ホワイトボード</li> <li>映写スクリーン/プロジェクター</li> <li>作業机と椅子20席程×2セット</li> <li>作業や打合わせ、待機スペース</li> <li>コーナーを区画する掲示板付き可動壁。ホワイトボード</li> <li>グループロッカー</li> <li>物品架6、備品庫、洗面台</li> </ul>	60㎡×2  120㎡
(6) エントランス/廊下/トイレ/共用部			中計 560㎡ ( 14%)
① エントランス 情報+くつろぎ スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設全体の構成がエントランス空間から感じられる。</li> <li>共用部からブックコレクションの管理下の平面計画とする。</li> <li>情報案内サイン、支援機器配置スペースを考慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>傘立て、車イス、ベビーカート</li> <li>ブックカートの収納スペース</li> <li>ブックポスト・コイン式ロッカー</li> </ul>	導入廻り環境 面積で算出 80㎡
② 共用スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>廊下、EV階段、トイレ、給湯、倉庫を機能的に配置する。</li> <li>視聴覚室など専用EV空調室など必要に対応する。</li> <li>屋上に室外設備機器配置スペースを配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開架部門の閉鎖時間に市民活動支援スペースを使える工夫必要</li> </ul>	共用部 12% 480㎡
③ 利用者のアクセス支援環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者のための底下アプローチと駐車場2台。</li> <li>一般駐車138台、バイク駐車30台の配置。</li> <li>業務用駐車、底下積卸し配本車スペースに雪対策を。</li> <li>駐輪場は2カ所に自転車140台配置。</li> <li>将来的な駐車増設の可能性を検討しておく。</li> <li>返本ブックポスト配置と車動線を検討しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場マーキング、車止め。</li> <li>機械式駐輪設備と平土間止め</li> <li>コイン管理方式等検討</li> <li>JR線路沿いに歩行者専用通路を公開空地で整備する。</li> </ul>	外部環境として 0㎡ 駐輪場上屋など 別途建築基準法 床面積が発生。
(7) 市民活動支援/集会展示部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>「図書館ひろば論」にあたる図書館から派生する集会と展示機能の環境。</li> <li>「市民活動支援」「包摂社会支援」から求められる自由な出会いの環境。</li> </ul>		中計 300㎡ ( 8%)
① フリースペース  多様な利用に 対応する環境  「ラーニングコモンズ」  「展示ギャラリー」  「コーナー作り」  「溜まり場」	<ul style="list-style-type: none"> <li>玄関ホールと連続して判りやすく行きやすく見える。</li> <li>開架と一体的に、BDS管理区域内に配置してもよい。</li> <li>部屋として区切らず開かれたスペースとし、広場系開架スペースとも自然につながるように配置したい。</li> <li>夏休みや開架閉鎖時間帯にも利用できればなおよい。</li> <li>開放的な講座、講習、会議、研修その他に利用する。</li> <li>机椅子コーナーをしつらえる。ラーニングコモンズ、大テーブルで50席程度の配置をイメージする。</li> <li>友人と待ち合わせ、節度ある飲食が可能なスペース。</li> <li>玄関ホールに近いコーナーとして各種の展示を行う。</li> <li>図書館企画の絵画、写真、ポスター等の展示、図書やそれに関連する展示、住民の地域研究展示ができる。</li> <li>可動展示壁で展示壁長50m程と展示コーナー囲いが作れるとよい。</li> <li>展示、掲示板可動壁の収納倉庫を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッキングチェアと台車</li> <li>8人机と椅子</li> <li>可動展示壁と固定展示壁面。</li> <li>スポット照明</li> <li>可動展示ケース</li> <li>可動展示壁の収納庫。</li> </ul>	300㎡
② カフェ  「くつろぎ席」	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地外周の高木に囲まれた緑を感じる喫茶コーナー。</li> <li>手洗い、自販機、を配置する。</li> <li>1階でも2階でもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーブルとスタッキングチェア</li> <li>フリースペースと共用</li> <li>手洗い ・自動販売機</li> </ul>	
③ 多目的防音室 スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館多目的室の典型をふまえて機能パターンを配置。</li> <li>※図書館活動に関わらない借室的利用は有料化と考える。</li> <li>平土間で机椅子で50席の配置ができる。講座、学習室。</li> <li>平土間で創作催事、親子参加の拡大お話し会、学級招待</li> <li>可動傾斜観覧席で200席程度の講演会、映画会、催事。</li> <li>多目的室へのアプローチ環境のフリースペースとは、透過性間仕切りと開放して一体の利用も可能とする。</li> <li>舞台無し。視聴覚設備。人形劇や影絵装置、</li> <li>専用の空調機械室、机椅子の収納倉庫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>150㎡程度の平戸間。</li> <li>3人机と椅子×16セット/50席。</li> <li>スタッキング椅子のみの配置 100席。</li> <li>可動傾斜観覧席で150席程の収容</li> <li>※開架室の中に多目的スペースや教室を配置する形も設計段階で検討する。(小学生学級招待の環境をしつらえる)</li> </ul>	
合計	中央図書館計画床面積合計 (サッシュ内床面積)	※3種の床面積：①必要計画床面積 ②建築基準法上床面積③施工床面積	4,000㎡ (100%)

3-1-③ 諸機能と各部門の配置概念図／相関図

- ここでは、各部門のゾーニング、諸室、諸機能の位置関係性と配置を図案化しました。
- 市民と職員それぞれの出入口と各部門への利用者動線の仕組みを、一平面に図案化しました。市民交流部門と図書館部門が管理区画されつつ、複数階の建築構成になることがイメージできます。これら複数階は、バリアフリーでエレベーターや階段で結ばれます。
- 複数階に渡る準開架、閉架書庫、運営諸室は、エレベーターと階段の縦動線でつながり、運営管理部門なども含めて、水平移動が短いことが望まれます。また、サービスデスクから、利用者の安全や緊急事態が把握できる位置関係が検討されることになります。
- 上記に例示した図書館利用や管理運営上の区画や動線処理をふまえて、本施設計画や一覧表で示された収容冊数や座席や各調度が納まること、設計案の必要条件です。

※BDSゲート：不正持出し防止システムのゲート



□各場と機能の相関図

- ・複数階に構成される建築の場の各機能の関係を一面の概念図案で示した。準開架については、上階に重なると想定して破線で図示している。
- ・市民交流系諸室は、開架と交流部門の両側に出入り口を設け施錠管理も考えられる。図書館利用領域の閉館時にも市民交流部門の利用が可能なゾーニングを表現している。